

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1981号 2009年07月27日(月)

《 no strong impact from the election 》

それにしても、市場参加者の視点から見て「少しもワクワクしない総選挙」の始まりである。今回の総選挙は、日本の戦後の政治史にとっては間違いなく非常に大きな変節点になると予想されるにも関わらず、である。

日本の戦後を考えると、今は麻生首相を党首として頂いている自由民主党は、1993年7月18日から約11ヶ月の短い期間（細川内閣、羽田内閣）以外は、一貫して政権の中枢に座り続けてきた。羽田政権に続く内閣の首相は自由民主党出身者ではなく日本社会党の村山富市氏だったが、連立与党の一翼に自民党はしっかりと入っており、政権の主力を担っていた。つまり戦後の日本は自由民主党という政党と共にあったと言って過言でない。

今回の8月30日投開票の選挙は、その自民党が政権の座を降り、政権からかなり遠ざかる可能性がある選挙としての位置づけが可能で、その意味では日本の戦後の歴史にとっては非常に大きな選挙だ。であるからして、本来なら金融市場は選挙そのもの、そしてその後成立の可能性が高い民主党中心政権、およびその政策に大きな関心を持ってもおかしくない。

しかし今の日本の株式市場を見ると「前日のニューヨーク市場の動きには関心を払うが、次の日本を担う可能性が高い民主党の政策にはあまり関心を払うことはない」というセンチメントが明確である。為替市場での「政権交代の可能性とそれが円相場に与える影響」に対する関心も低い。為替市場関係者が見ていると言えば、中国がドルに対して何を言うか、世界の資本の動きがどうか、そして金融市場のリスク許容度がどう変化しているのか、である。

なぜそうなのか。なぜ日本の戦後の政治史にとって大きな変化となる政権交代の可能性が市場の材料にならないのか。

第一に指摘できるのは、覇を競っている両方の政党、即ち自民党も民主党も、政策の小手先のところでは競っているが、税体系をどうするかとか年金システムをどう転換するかなど大きなデザインでは違いが見えず、ややこしい論争を避け、市場が「どちらなら期待できる」というシナリオさえも描けないことが挙げられる。月額2万6000円なにがしかの「子供手当」に金融市場が反応することはない。それは日本経済が今直面している困難性、閉塞感を打破できるものではないからだ。今の外需依存の日本経済が立ち直るためにはや

はりアメリカや中国の経済が立ち直らなければならないが、両政党が米中経済の立ち直り策を持っているわけではない。

第二に、日本の政治が海外諸国の政策に影響力がないのは仕方がないとして、「これで日本経済が変わる」という政策を両党とも打ち出す可能性も低いことだ。民主党のマニフェストは27日に出てくるそうだが、その基礎となるインデックス2009を見る限りでは外交政策では若干現実路線に路線変更したが、経済政策の柱は変わっていないし、小さなバラマキ政策の積み重ねで、その財源手当の問題も市場が納得するようなものにはなっていない。自民党に至っては、マニフェストの中味を巡ってまだ党内論争している段階だ。

《 weal personality 》

第三にパーソナリティの弱さだ。これは日本の政治全般に言えることだが、海外の投資家にとってもビジブルで、「あの人ならこれをやりそうだ」という政治家が日本にはいなくなってしまった。最も直近でその種のカリスマ性を持っていたのは小泉首相で、今でも彼の政策に対する海外投資家の見方は好意的だ。しかし日本ではその小泉首相は引退を表明し、その後日本の経済を導く政策や改革を目に見える形で提言出来る政治家はいない。

かくして、非常に大きな政治イベントとしての今回の総選挙は、市場的観点からは「様子見」ということになってしまっている。もっとも実際に政権の行方がはっきりして政策策定プロセスが明確になり、その抱えている問題点と可能性が明らかになれば市場はそれなりに動く可能性がある。しかし市場は当面ということであれば、「選挙は様子見」との姿勢を決めてしまっているようである。

その間の市場動向を考える上で重要なのは、株式市場の観点から見ると再び上を向いた市場の力の「突破力の強さ」だろう。3月から6月末までの上昇局面は7月の初めに調整して、その後再び日米で上値をトライする勢いにある。日経平均で言えば10000円の水準が近い。企業業績などは上向きつつあるものの、雇用が厳しい中で消費の伸びを予想できない先進国経済の先行きをどう判断するのか、その中で途上国の成長余力にどの程度期待できるのか。筆者は依然として株式市場が上値を追い続けるには多くの問題を抱えていると見ている。

株の調整局面入りは、最近の知恵に寄れば円高局面の再現である。7月初めの調整は短期間で終わったが、その分だけ株式市場の上値追い、為替相場での円安余力は弱いとも考えられる。

今週の主な予定は以下の通り。

7月27日(月)	企業向けサービス価格指数 米6月新築住宅販売件数 米中戦略経済対話(～28日、ワシントン)
7月28日(火)	米5月S&Pケースシラー住宅価格指数

7月29日(水)	米7月コンファレンスボード消費者信頼感指数 6月商業販売統計 米6月耐久財受注 米ページブック 米クライスラーが新体制での初の取締役会
7月30日(木)	6月鉱工業生産(速報) 韓国が人工衛星搭載ロケット打ち上げ
7月31日(金)	6月労働力調査 6月家計調査 7月都区部・6月全国消費者物価指数 6月住宅着工件数 6月建設工事受注 米4-6月GDP(速報)(1995年からの米GDP統計を一括改定) 米4-6月個人消費(速報) 米4-6月コアPCE 米7月シカゴ購買部協会景気指数

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。梅雨明け宣言があったにも関わらず、私がいた関東や中部地方はどこか梅雨模様で、「いつまでも夏らしくならない」という二日間でした。北九州は大変だったらしいですね。

もっとも筆者は土日とも諏訪にいたので、朝晩の涼しさは「東京にもって帰りたい」と思うほど。汗知らずで、夜は寒いほど。何をしているかという、先祖達が残した膨大な本を眺めながら、「整理しなければならぬが・・・」と呆然としていると言ったところでした。徐々に片付けていくつもりです。むろん中味を確かめながら。

それにしても夏の道、特に週末の道は混む。特に高速道路は。日本道路交通情報センターのHP(<http://www.jartic.or.jp/>)を見ながら移動しているのですが、それはその時点での話であって、その渋滞が1時間後、2時間後にどうなっているかについては予測するしかない。大きな事故の時には閉鎖になったりする。しかし荷物を移動させるには車が一番便利です。

しばらくこんな状態が続くのかと思うと憂鬱ですが、そう思っていたら爽快なニュースが昨夜、遅い時間ですが入ってきました。宮里藍ちゃんがアメリカに渡って以降初めて米ツアーで勝った、というニュース。スウェーデンのグスタフソンをプレーオフで破っての勝利。米ツアーでは最近韓国の選手が勝つことが多くて、そこに宮里や日本人選手が絡んでこなかったのか、「どうしているのかな」「アメリカを諦めるつもりか」と思っていたら、この

朗報。日本で順調だっただけに、アメリカでは苦労したのでは。それを耐えての優勝だけに価値がある。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》